

技術士 2 次試験に合格して



井鳥 聖也

(いとり せいや)

勤務先

株式会社 アルファ水工コンサルタンツ

北海道本社 技術部

〒063-0829

TEL 011-662-3331 FAX 011-662-3408

E-mail itori@ahec.jp

■ 専門：水産部門(水産土木)

1. 自己紹介

私は北海道夕張市で生まれ、その後、両親の仕事の関係で北海道内を転々として育ちました。高校生の時には特に将来の夢ややりたいことなどはなく、日々、無気力に生活していたのですが(もちろん帰宅部)、寒いのが嫌いで南国に強い憧れを抱くようになり、大学は沖縄県の琉球大学に進学しました。沖縄に行くこと自体が目的でしたので、専攻には何もこだわりはなく、何となく土木工学を専攻しました。

大学時代も特に学問には興味がなく、アルバイトとお酒を中心に、怠惰な日々を送っていたため、卒業が困難な状態に陥ってしまいました。そこで、大学くらいは何とか卒業しようと思い、一念発起して勉強しました。勉強を進めるうちに、水理学や海岸工学の難解な偏微分方程式を解読することに面白味を感じるようになり、不思議なことに大学院まで進学してしまいました。大学院では、海岸工学の研究室に所属し、数値計算手法の 1 つである粒子法の精度向上に関する研究を行いました。結果、将来的にも海岸工学の分野で仕事がしたいと思い、北海道で海岸・漁港分野を専門としたコンサル業務を行っているアルファ水工に入社した次第です。

2. 技術士試験について

大学では、私の世代から JABEE 制度が認定されたため一次試験が免除となりました。勉強嫌いの私にとっては幸運だったと思います。大学院の 2 年間で業務経歴に含むことが可能であるため、入社 3 年目の年に初めて技術士二次試験を受験しました。

(1) 筆記試験

1 回目の受験の年は、先輩からの勧めで北海道の海分野で活躍する先輩方が講師を勤める塾に入塾し勉強しました。しかし、仕事の合間を縫って勉強することは非常に辛く、塾の課題を最低限こなすのが

精一杯でした(仕事が忙しいというのは言い訳で、休みの日に勉強したくなかった……)。特に、1 つの論文を完成させるのに時間が掛かり、十分な論文数を準備できず、筆記試験不合格となりました。

2 回目の受験では、受験勉強する時間を十分に確保することは困難であると割り切り、限られた時間を有効的に使う勉強方法に切り替えました。具体的には、論文を 1 本ずつ完成させるのではなく、骨子法を活用し、テーマに対する要点のみ整理することで、対応可能な問題数を飛躍的に増やしました。また、日々の業務では、技術的な課題・解決策、トレードオフを意識して取り組みました。その甲斐があったのか、単に運が良かったのか、奇跡的に 2 回目の受験で筆記試験に合格することが出来ました。

(2) 口答試験

正直なところ、まさか筆記試験に合格することができるとは思っていなかったため、口答試験対策は何もしていませんでした。再現論文も作成していませんでした。文字通りゼロからの試験対策となったのですが、社内技術士の方々からの手厚いサポートのおかげで、何とか乗り越えることが出来ました。もし、筆記試験で手応えがなかったとしても、再現論文くらいは作成しておくことをお勧めします。

3. 今後に向けて

近年の海水温や海流の変化により、これまで太宗魚種であった漁獲の減少や、暖流系魚種が水揚げされるなど、北海道の水産業を取り巻く情勢が変化しています。また、乱獲等の人為的要因により資源量自体が低下しており、水産業における課題は山積みであると考えています。これらの課題に対して少しでも力になれるように、多くの技術士の方々と意見交換を行い継続研鑽していきたいと思っています。

今後とも、どうぞ、よろしくお願いいたします。